

## 西岳・蓼科山山行報告書

(山域) 八ヶ岳：西岳・蓼科山

(日時) 1月27日(土曜日)～1月28日(日曜日)

(コース) 1/27：富士見高原ゴルフコース(駐車)～不動清水～西岳～駐車場

1/28：女神茶屋～蓼科山～女神茶屋

(天候) 1/27：晴れ(風強し) 1/28：晴れ(高曇り、風強し)

(参加者) CL：内堀(記録)・SL：小宮山・田邊

(山行タイム)

12/30：富士見高原ゴルフコース(駐車場) 8:25～不動清水 9:15～西岳 12:05～駐車場 15:40

12/31：女神茶屋(駐車) 8:25～蓼科山 11:40～女神茶屋 13:40

(山行報告)

1月27日(土)：西岳山行報告

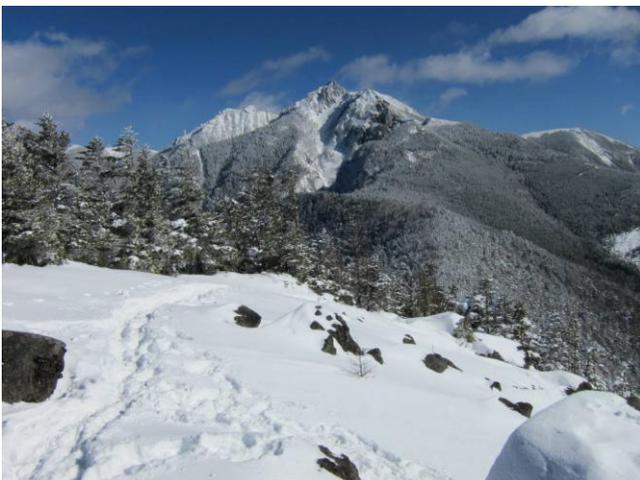
金曜日の夜、自宅を20:40頃出発して、小宮山宅・田邊宅立ち寄り、湾岸線・首都高から中央道に進める。石川PAで休憩して、運転手を変わり一気に小淵沢ICに到着する。渋滞もなく約3時間で到着した。近くのコンビニで買い物を行い、道の駅「こぶちざわ」でテントを張る。入り口付近にテントを張っているメンバーがいて、ちば山メンバーかと思いきや違うグループ、すり抜けて先の場所でテントを張り、軽い宴会を行い2:00頃には就寝した。朝方かなり寒く、最強寒波の影響から相当冷え込み、寒くて起きてしまった。ダウンパンツ・ゾウ足・シラフカバー等を付けず寝てしまい、少し油断してしまった。6:00起床して、朝食を食べてお湯を沸かしポットにと慌ただしく動くものの寒くて、体が動かず出発したのが、7:40過ぎになってしまった。富士見高原ゴルフコースに車を止めて、出発の準備を進めると、隣のグループは荷物が重い、西岳・青年小屋から権現岳へ向かうとの事。大変だね。我々は少ない荷物で出発する。トイレが無かったせいか動き出しはスローペースで動き出し、不動清水でトイレ休憩を行い体調は少し戻った。とりあえず行けるところまでと思い、つぼ足で少しずつ速度を上げていくと、田邊さんついてくるので更にスピードを上げて高度を重ねていく。かなりのハイペースである。林道を2回ほどまたぎ、高度を稼ぎ小広場まで少し手前でアイゼンを装着する。400m/H上がったので、今日は編笠山まで行けるのかと思ったが、アイゼン装着後は急に失速してしまい、11:30頃まで西岳に付いたら考えようかと思ったが、西岳に到着したのが12:00を過ぎてしまい、本日ここで終了宣言。

山頂からは編笠山・権現岳が見え、木の間から見えるのは赤岳・阿弥陀岳である。圧巻の景色である。真正面には南アルプスの仙丈岳・甲斐駒岳・北岳と続き手前には鳳凰三山が居座っている。更に左に富士山が見え景色が良い。残念ながら中央アルプス・御嶽山・乗鞍岳は雲の中である。ここで、景色を充分堪能して時間を潰す。但し、天気が良くても寒い。山頂でも木があるお蔭で風は微風である、ありがたい。山頂と別れを惜しみ下山を開始する。皆さんに帰りは長く感じるよと話す、不思議そうな顔立ち、下山を開始して見ると長い時間で驚く。今日は登りを相当早く駆け上がったので、下りも長く感じる。2回ほど休憩を挟みようやく駐車場が見えた時は本日の終わりを告げる。ヤレヤレである。駐車場到着後は、温泉や宿泊の準備を行う。温泉は何処にと考えあぐねた結果、未だ行っていない白州塩沢温泉のフォッサマグナ温泉に決定し向う。建物は古く学校のような作りである。風呂代も高く820円であるが、割引が適用され720円であった。中の温泉は高温湯・低温湯があり、塩分が沢山入っている温泉である。中にこの温泉の由来とフォッサマグナの能書きが書いてあった。フォッサマグナ(Fossa magna)とは、大きな溝という意味。「日本の主要な地溝帯の一つで、地質学においては東北日本と西南日本の境目となる地帯。中央地溝帯(ちゅうおうちこうたい)、大地溝帯(だいちこうたい)とも呼ばれる。端的に言えば、古い地層でできた本州の中央をU字型の溝が南北に走り、その溝に新しい地層が溜まっている地域である。」

その先を見ると「ガイヤ」の説明があり、大地の神様とある。私はここで食いついた。へー温泉後は、道の駅「はくしゅう」まで戻り、テントを張り宴会を開始する。ビールで始まり、日本酒を4合瓶1本半開け、更に飲み続け疲れ果て、ようやくお開きとなる。久しぶり飲み過ぎた。

マットを引き寝床を作り一気に寝てしまった。トイレも我慢して朝方まで寝てしまった。



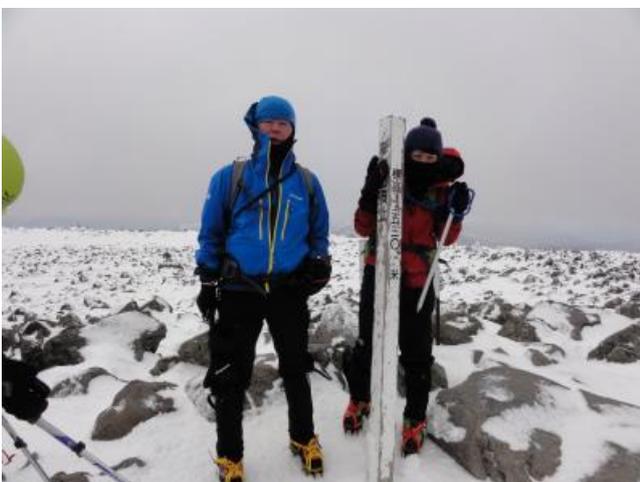




## 1月28日（日）：蓼科山山行報告 おびえ

早朝 4:50 頃に目が覚めた。5:00 に声を掛け全員で起床する。昨日の夕食は沢山用意して頂いた  
ので、朝食は昨日の残りのポトフ、サンドウィッチと豪勢である。昨日の遅れもありテキパキと  
進める。7:00 前には出発したいと思ったが、丁度 7:00 になってしまった。ナビをセットするもの  
の到着時刻予測 8:30 遅いと、車を少しだけ早くして、女神茶屋に到着したのが 8:00 である。本  
日は中の駐車場に止める事が出来た。路駐ではなくありがたい。出発の準備を整え登山口に向か  
う。本日どうも体の調子が今一である。寒さのため坐骨神経痛が響く。歩くのに難儀である。ま  
た、飲み過ぎから来る水分不足気味である。心配になるものの歩き出し登り始めるが、やはり坐  
骨回りが痛い。ロキソニンを飲み歩き始め少しは楽になるが、昨日と違い硬度 100m 登るのが辛く、  
山頂まで辿りつけるか心配になる。初めよりツボ足で歩き続け 1 回目の休憩でアイゼンを装着す  
る。雪が付いているお蔭で、岩と岩の隙間に雪が付いており、段差が無くなり歩き易い。樹林帯  
の木の背が低くなり、森林限界を超える急登でピッケルを出して、慎重に登り始める。森林限界  
を超えた辺りから急激な風が吹き、後ろから風が飛び込んでくる。しっかり、足を固定しながら  
ピッケルと足で踏ん張る。田邊さんは強風から少し遅れ気味になり、小宮山さんの助けを借りな  
がら登って来た。途中下山も考えたがあと少しであり、山頂標識が見え、あとひと踏ん張りと思  
い、登ると山頂に到着する。山頂では風が吹き荒れ 20m 近い風が常時吹いている。突風でない  
ため足に力を入れると踏ん張り切れる。何とか記念撮影を済まし下山を開始する。田邊さんはサ  
ングラスを落としたようで、小宮山さんからゴーグルを借りて対応する。帰りは真正面に風が吹  
き付けサングラスのため、目に雪が入り我慢、我慢と下り、岩場を下り樹林帯に入ると急速に風  
は弱まり、ホッとする。急坂を下り少し降りた所で休憩を取る。エネルギーを入れた後は、ピッ  
ケルを収めストックに持ち変える。下山すると昨日とは違いあつと言う間に、駐車場が見えた。

後ろを振り向くと登って来た蓼科山が見える。ここ登ったんだよね。駐車場到着後は、握手して安全登山が終了した事を喜び合う。サングラスは車の後ろのワイパーに掛けてあった。車の周辺で落としたようであった。一安心。本日寒いとアイスの素を持っていたが、結局部分的にしかできず液体のままであった。お風呂は何時もの縄文の湯に浸かり、本日の汗と疲れを取った。帰り際、菊地先生にお会いする。蓼科山の状況を確認されたが、山スキーには雪が足りない状況である事を説明し別れる。時間も早く高速道路に乗り一気に進み、途中運転手交代を行い石川PAまで渋滞もなく進む。ここで早い夕食を食べ帰葉する。全員送り届け自宅についたのが、20:10と普段と違い早く、登山道具含め片付けができ、渋滞が無いとは体の負荷が軽減されるものである。冬の中央道の帰りは渋滞が少なく良い狙い目である。





以上